日本獣医生命科学大学
同窓会報
第40号
平成22年1月15日発行
日本獣医生命科学大学
同窓会
東京都武蔵野市
境南町1-7-1
発行者　中　條　眞二郎
直通電話・FAX
0422-33-2916
母校代表電話
0422-31-4151(内326)
dosokai@nvlu.ac.jp

母校創立百三十周年の歴史を思う

日本獣医生命科学大学同窓会会長　中　條　眞二郎

会員の皆様には、平素より同窓会の活動に篤いご支援・協力を賜り心から厚くお礼申しあげます。

平成二十一年三月に新たに三二八名の正会員と四月に準会員(新入生)三七二名をお迎えできましたことは、同窓会として大いなる喜びであります。昨今の急激な経済情勢の悪化の中、卒業された皆様はいきなり厳しい現実に遭遇したことと思います。しかし、母校で研鑽を積まれたことを糧として、難関を乗り越え各分野においてご活躍のことと拝察致します。また胸膨らまして母校を選んだ新入生諸君は、悔いのない学生生活を過ごされていることと存じます。

本年度の同窓会の活動について誌上を借り報告とお願いをさせて戴きます。

創立百三十周年記念事業について

一八八一年に創立、二〇一一年五月十日に、創立記念式典が予定されております。折々にお知らせして参りましたが、本記念事業は、第一校舎をより充実させる施設整備の新規事業が含まれます。計画は獣医保健看護学科の教育・研究施設の整備と食品科学科が拠点としている第二校舎の老朽校舎の整備を併せて解決する方策であります。また学生の厚生施設の整備についても、本建築物の地下に武道場を作る計画を聞いております。何よりも喜ばしいことは、広大な多目的運動場の設置と馬場の確保です。それは西東京市（旧田無市）の東大農場の一部を譲渡して戴ける話が進められています。この大事業の原資は、第二校舎の売却益によるのですが、時勢は決して本計画に対し追い風でなく逆風の経済状況は非常に残念であります。実現に向け、同窓会も支援・協力することは勿論であります。体育館の完成に引き続き、武道場の建設、運動場と馬場の確保は、クラブ及び同好会の活動が活発となり、学園の雰囲気も大きく変化すると思います。体育会ＯＢ・同好会ＯＢの皆様、学生時代はこれらの施設整備が完備されていない中で苦労されたと思います。後輩には、明るく楽しいクラブ活動が送れるよう、その節は絶大な応援をよろしくお願い致します。

同窓会として記念事業への協賛は

創立一三〇周年にあたり、母校の事業に協賛すること、及び会員の同窓会活性化の意味を込め、住所が明らかな方（約一万名）に同窓会名簿を無料配布致します。前回の名簿は、二〇〇四年の発行ですから六年が経過しており、この間、約二千名の同窓会員を迎えておりますが、名簿に未掲載のままであります。この機会にしっかりした名簿を作成しないと、次に作成するときは大変な作業になることは、火を見るよりも明らかであります。同窓会名簿については言うまでもなく、新しい出会いや懐かしい再会も本名簿から生まれます。また同窓会名簿は、種々の情報の収集などに有用であり、同窓会の活動に大変重要なツールであります。しかし一方では会員各位の個人情報の管理や保護に十分な配慮が必要であることを踏まえ、独自にこの保護法の規定を作成し、対応するために準備をして来ました。

今回の名簿のスタイルは、今までにない編集の取り組みをしました。以前会員に送付しました調査票の返送に何卒ご協力をお願い致します。

動物科学科、食品科学科と獣医保健看護学科の同窓生の皆様にお願い

数年前からお知らせしてきましたが、平成二十年度から、二学部四学科の各学科定員が八十名となり卒業生も当然増え、各学科の卒業生の数は平成二十四年度から同数になります。当然、同窓会運営は、四学科の同窓生の参加によって行うことが理想であります。食品工学科の第一回卒業生は昭和四十六年、経営畜産学科として再開した卒業生は昭和四十七年ですから、それぞれ卒後三十八、三十七年になり還暦を迎え閑職となる年齢です。然るに同窓会の運営などに協力をして戴ける状況が整い、これらの状況に合った会の運営を考慮しなければならない時期がきました。以前から各県支部同窓会の総会に出席させて戴き支部事情を伺ってきました。各県支部役員の方々は、獣医学科以外の同窓生の参加を願い、ご苦労されていることをご斟酌下さい。しかし歴史的な背景からか獣医学科の同窓会

色が強く、獣医学科以外の他学科の会員になじめない空気は否めません。親睦を目的とした強制力の無い同窓会は、獣医学科以外の学科の同窓生参加を募るための方策として、役員を増やすことも考えてみましたが必ずしも最善の解決策とは思われません。会員の母校愛に訴え、個々会員皆様が同窓会に関心を持って戴くような意識の改革が大切なのではないかと思います。どうか、積極的に支部会に参加されることをお願いします。

今後、同窓会会則改正については、全学科同窓の参加しやすい会則を念頭に、多くの会員の意見をくみ取り慎重に検討して行く所存です。

同窓会ホームページの活用について

同窓会と母校の情報収集は、支部総会に参加する事ですが、やむを得ず参加できない方々が多いと思います。情報を伝える手段として、ホームページの開設を役員会で検討してきましたが、平成二十年度から吉田孝治理事（大16期）に事務局をお願いし、ホームページの開設に努力して貰いました。最新の同窓会、会員の動向などを掲載しております。

会員皆様のご活躍を祈念すると共に、同窓会と母校の発展に更なるご支援とご協力をお願いします。

平成二十一年度 同窓会理事会・代議員会開催

平成21年7月19日（日）午前十時より母校B棟において28名の理事出席のもと同窓会理事会が開催され、代議員会へ提出する議案書について討議がおこなわれ、ほぼ原案通り承認された。

午後一時から来賓（赫法人理事長、池本学長）、顧問二名をお迎えし、理事、代議員95名の出席の下代議員会が開催された。

開会に先立ち、常務理事柴田芸平氏ほかご逝去された会員の方に黙祷をささげ御冥福をお祈りした。

吉田事務局長の開会宣言の後、中條会長、来賓の挨拶がなされ、議長に福岡周孝氏（熊本県・大15期）、副議長に塚田明氏（埼玉県・大8期）、議事録署名人に左向敏紀氏（大学・大25期）、清水一政氏（大学・大17期）が選出され討議に入った。

第一号議案　平成20年度事業報告

相見常務理事より報告があった。

1　平成20年度代議員会開催

平成20年7月19日（日）に開催、終了後懇親会を開催した

2　常務理事の担当変更

柴田氏の逝去に伴い、事務局長は新井敏郎常務理事より吉田孝治常務理事、学術編集部長は柴田芸平常務理事より新井敏郎常務理事へ担当を変更した。

3　理事変更（敬称略）

東北地区：牧　富男（大11期）
茨 木 県：荒木　昭雄（大10期）
群 馬 県：田所　喬樹（大16期）
千 葉 県：鎌田　知能（大14期）
香 川 県：平尾　勝行（大10期）

4　役員会および役員会等の開催

(1)理事・監事会　1回
(2)監事会（監査）　1回

(3)常務理事会　8回
(4)会報編集会議　5回

5　支部強化

代議員不参加支部に対して代議員会への参加要請

全国23支部総会への派遣（4頁参照）

6　会報39号発行

7　第24回日本獣医生命科学大学学術交流会への協賛

8　大学への支援

梅野信吉賞の記念盾および副賞を贈呈

9　学生会員(準会員)への関連事業

(1)入学祝：USBメモリー
(2)卒業祝い：同窓会ペーパーウェイト
(3)同窓会褒賞：学生表彰の記事を参照
(4)大学祭への支援
(5)奨学生候補者の選考：一名（申請取り下げ）
(6)就職支援活動

第二号議案　平成20年度会計収支決算書

平成20年度会計収支決算報告が寺田常務理事（経理担当）より報告があった。（4頁参照）

事業および収支は適正に執行されているとの監査報告が乗本監査（大13期）、串田監査（大3期）、武富監査（大6期）よりあった

第三号議案　平成21年度事業計画(案)

平成21年度の事業実施案が相見常務理事より説明

1　平成21年度代議員会開催
　平成21年7月19日（日）母校B棟二階211講義室にて開催、懇親会開催予定
2　同窓会会員個人情報の電子化
3　母校百三十周年記念事業の同窓会名簿発行準備
4　母校百三十周年記念事業への協賛
5　同窓会館建設準備
6　役員会および委員会等の開催
7　支部強化活動
　(1)代議員会不参加支部に対して代議員会参加の要請
　(2)支部総会への派遣
8　会報40号発行
9　第25回日本獣医生命科学大学学術交流会・広島大会への協賛
10　大学への支援

(1)母校学術交流会への協賛
(2)梅野信吉賞への記念盾および副賞を贈呈
11　学生会員(準会員)への関連事業
　(1)入学祝い
　(2)卒業祝い
　(3)同窓会褒賞者：四学科各一名
　(4)大学祭への援助
　(5)奨学生候補者の選考
　(6)就職支援活動

第四号議案　平成21年度収支予算(案)
　平成21年度収支予算案が寺田常務理事より説明があった。(4頁参照)

第五号議案
　監事が串田壽明氏から針谷光二氏へ変更に伴い、理事は針谷光二氏から野口昭氏に残任期間をお願いすることを提案、慎重審議の結果第1号議案～第5号議案は全員賛成で承認された。
　吉田常務理事より閉会の挨拶があり閉会となった。

議事録署名人　清水　一政
　　左向　敏紀

　代議員会終了後、〝むらさき〟にて懇親会が開催された。

全国支部会への派遣報告

支　部	開催日	場　所
三重県支部	平成21年3月28日(土)	松阪シティホテル
京都府支部	平成21年3月7日(土)	福知山　サンプラザ万助
武蔵野三鷹支部	平成21年2月27日(金)	三鷹　桜庵
鹿児島県支部	平成21年1月24日(土)	ホテル京セラ
千葉県支部	平成20年12月14日(日)	ポートプラザちば
石川県支部	平成20年12月13日(土)	金沢市ホテル金沢
群馬県支部	平成20年11月30日(日)	伊香保　森秋旅館
熊本県支部	平成20年11月22日(土)	熊本交通センターホテル
佐賀県支部	平成20年11月16日(日)	武雄市　割烹古賀
静岡県支部	平成20年10月25日(土)	静岡市美保シーサイドホテル福田家
神奈川県支部	平成20年10月12日(日)	江ノ島水族館・江ノ島ニュー向洋
九州地区同	平成20年10月11日(土)	沖縄ポートホテル
広島県支部	平成20年10月5日(日)	鯉城会館（県民文化センター）
宮城県支部	平成20年9月21日(日)	仙台ガーデンパレス
長野県支部	平成20年9月13日(土)	松本ホテルニューステーション
岐阜県支部	平成20年9月7日(日)	岐阜市ホテルグランヴェール岐山
四国連合支部	平成20年9月6日(土)	松山市にぎたつ会館
兵庫県支部	平成20年8月30日(土)	ホテル六甲荘
茨城県支部	平成20年8月29日(金)	友部駅前・割烹須藤魚店
山梨県支部	平成20年8月27日(水)	割烹高野
新潟県支部会	平成20年8月2日(土)	月岡温泉ホテル冠月
大阪府支部	平成20年7月26日(土)	プリムローズ
福島県支部	平成20年7月5日(土)	磐梯熱海温泉・永楽館

以上23支部

第４号議案平成 21 年度収支予算（案）

平成 21 年度一般会計収支予算書（案）

平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで

収入の部　　（単位：円）

科　目	本年度予算額	前年度予算額	差　異	摘　要
1　同窓会費	8,700,000	8,700,000	0	本年度 2,000 口 , 過年度 900 口
2　入会金	18,400,000	18,400,000	0	50,000 円× 368 名
3　諸収入	82,000	49,000	33,000	
利息	12,000	9,000	3,000	
寄付金	60,000	30,000	30,000	
雑収入	10,000	10,000	0	
当期収入合計（A）	27,182,000	27,149,000	33,000	
前期繰越収支差額	6,644,049	3,365,459	3,278,590	
収入合計（B）	33,826,049	30,514,459	3,311,590	

支出の部

科　目	本年度予算額	前年度予算額	差　異	摘　要
1　事業費	12,300,000	11,500,000	800,000	
会誌発行費	0	0	0	会誌印刷、発送、学生会員配布等
会報発行費	3,500,000	2,500,000	1,000,000	会報印刷、同窓会ニュース、発送等
事業推進費	200,000	200,000	0	
支部助成費	700,000	800,000	△ 100,000	45 支部分
学生会員援助費	3,700,000	3,500,000	200,000	大学祭 700,000、入学祝品 1,300,000、卒業祝品 1,500,000、表彰 200,000
学術振興費	1,500,000	1,000,000	500,000	母校学術交流会、梅野賞など
就職対策費	200,000	200,000	0	学生会員就職対策
渉外費	300,000	300,000	0	法人母校等との折衝費
慶弔費	200,000	200,000	0	
大学への協賛費	0	800,000	△ 800,000	
名簿発行準備費	2,000,000	2,000,000	0	氏名掲載アンケートなど
2　会議費	5,000,000	6,000,000	△ 1,000,000	
代議員会議費	4,000,000	5,000,000	△ 1,000,000	代議員旅費等
役員会議費	1,000,000	1,000,000	0	理事会（旅費を含む）
3　事務費	7,400,000	7,700,000	△ 300,000	
事務手当	4,000,000	4,000,000	0	事務手当、アルバイト料、通勤費等
旅　費	1,500,000	1,600,000	△ 100,000	支部派遣
印刷費	200,000	200,000	0	封筒、コピー代、振替用紙等
通信費	300,000	300,000	0	郵便料、電話代等
振替・振込手数料費	100,000	100,000	0	郵便振替、銀行振込
器具備品費	300,000	500,000	△ 200,000	事務機器など
ホームページ管理運営費	800,000	800,000	0	63,000 円 / 月
消耗品費	100,000	100,000	0	事務用品類など
雑　費	100,000	100,000	0	残高証明など
4　特別会計繰入金	8,801,217	4,645,429	4,155,788	
名簿発行引当金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	
同窓会館積立引当金	5,000,000	3,000,000	2,000,000	
奨学基金引当金	10,000	10,000	0	
退職給与引当金	102,200	67,200	35,000	
記念事業積立引当金	1,500,000	0	1,500,000	創立 130 周年記念準備
減価償却引当金	189,017	568,229	△ 379,212	
5 予備費	324,832	669,030	△ 344,198	
当期支出合計（C）	33,826,049	30,514,459	3,311,590	
当期収支差額(A-C)	△ 6,644,049	△ 3,365,459	△ 3,278,590	
次期繰越収支差額(B-C)	0	0	0	

第２号議案　平成 20 年度収支決算

平成 20 年度一般会計収支決算書

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで

収入の部　　（単位：円）

科　目	予算額	決算額	差　異	摘　要
1　同窓会費収入	8,700,000	6,399,000	2,301,000	「1,337 ＋ 789（19 年）＋ 6（21 年）」口× 3,000 円、端数 3,000 円
2　入会金収入	18,400,000	18,400,000	0	368 名× 50,000 円
3　諸収入	49,000	112,311	△ 63,311	
利　息	9,000	12,311	△ 3,311	
寄付金	30,000	100,000	△ 70,000	
雑収入	10,000	0	10,000	
当期収入合計（A）	27,149,000	24,911,311	2,237,689	
前期繰越金	3,365,459	3,365,459	0	
収入合計（B）	30,514,459	28,276,770	2,237,689	

支出の部

科　目	予算額	決算額	差　異	摘　要
1　事業費	11,500,000	8,371,957	3,128,043	
会誌発行費	0	0	0	
会報発行費	2,500,000	3,559,416	△ 1,059,416	38・39 号印刷、発送
事業推進費	200,000	0	200,000	
支部助成費	800,000	552,900	247,100	38 支部；1,843 口× 300 円
学生会員援助費	3,500,000	2,936,671	563,329	大学祭 50 万円、入学祝品 1,064 千円（357 名）、卒業祝品 1,276 千円（325 名）、同窓会賞 96 千円（3 名）
学術振興費	1,000,000	954,360	45,640	学術交流会（協賛金 30 万円、交通費 15 万円など）、梅野信吉賞 50 万円
就職対策費	200,000	0	200,000	
渉外費	300,000	180,040	119,960	法人・母校等との交流費
慶弔費	200,000	126,820	73,180	供花 5 件、支部長表彰 3 名
大学への協賛費	800,000	0	800,000	
名簿発行準備費	2,000,000	61,750	1,938,250	目隠しシールなど
2　会議費	6,000,000	3,344,962	2,655,038	
代議員会議費	5,000,000	2,850,542	2,149,458	代議員旅費・宿泊費、
役員会議費	1,000,000	494,420	505,580	常務理事会、監査会
3　事務費	7,700,000	5,150,924	2,549,076	
事務手当	4,000,000	2,733,520	1,266,480	事務手当、バイト料、交通費
旅　費	1,600,000	1,274,880	325,120	23 支部派遣
印刷費	200,000	21,493	178,507	コピー代など
通信費	300,000	111,644	188,356	電話代 47,311 円、メール便 28,000 円
振込手数料費	100,000	11,865	88,135	
器具備品費	500,000	129,247	370,753	椅子、サイドテーブル、プリンター 9.7 万円
ホームページ管理運営費	800,000	756,000	44,000	63,000 円 / 月
消耗品費	100,000	63,396	36,604	
雑　費	100,000	48,879	51,121	事務用品（インク、伝票、リボン）など
4　特別会計繰入金	4,645,429	4,572,298	73,131	
名簿発行引当金	1,000,000	1,000,000	0	
同窓会館積立引当金	3,000,000	3,000,000	0	
奨学基金引当金	10,000	10,000	0	
退職給与引当金	67,200	67,200	0	
減価償却引当金	568,229	495,098	73,131	
5　固定資産取得費	0	192,580	△ 192,580	プロジェクター一式
6　予備費	669,030	0	669,030	
当期支出合計（C）	30,514,459	21,632,721	8,881,738	
当期収支差額(A-C)	△ 3,365,459	3,278,590	△ 6,644,049	
次期繰越収支差額(B-C)	0	6,644,049	△ 6,644,049	

事務局だより

○同窓会本部への連絡

氏名、住所、卒業学科、卒業期を明記の上、電子メール　dosokai@nvlu.ac.jp
ファクシミリ　0422－33－2916
郵便等でお願いします。

○同窓会名簿を充実化するためのお願い

住所不明の会員が多く見受けられます。「個人情報調査票」が手元に届いていない方は、住所の変更届けあるいは住所の登録がされていません。至急本部へ調査票を請求されるか、住所・氏名等の変更届をお願いします。

最新の同期会名簿が有りましたら本部へお送り下さい。なお、支部会名簿の場合は、変更会員にマークを付けてお送り下さい。皆様のご協力をお願いします。

調査票を未提出の方は、〝料金受取人払い〟の期限が切れております。ご面倒でも50円切手を添付して至急ご返送下さい。

○同窓会名簿の電子化

間もなく作業が終了し、本格的なサービス運営が開始されます。

運営は同窓会個人情報保護法に基づき行われます。保護法の詳細は会報39号あるいは同窓会ホームページにて確認して下さい。

支部会、クラス会などでサービスを希望する場合は、代表者が同窓会本部へ申請書を提出してください。申請書には代表者氏名、卒業学科、卒業期、住所、電話番号、メールアドレスおよび使用目的を記載し、ファックス等で事務局へお送り下さい。事務局に登録されている記録と照らし合わせ、電話で代表者本人確認の連絡を致します。本人確認が終了した後に会長へ申請書を提出します。会長の承認が得られた場合は申請のあった氏名、住所のみのデータをお渡しします。これを申請した目的以外に使用されますと会則違反となりますのでご注意下さい。

○会費納入のお願い

本会の事業は、会員の会費によって運営されています。同封されている振込取扱票により会費の納入をお願いいたします。

なお、支部から一括納入される方は、各支部の指示にて会費納入をお願いします。

振込先は
口座番号0150－1－20229
日本獣医生命科学大学同窓会宛です。

払込取扱票の通信欄には卒業学科、卒業期、住所等変更等の有無を明記して下さい。払込人住所氏名欄には郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して下さい。

振込取扱票の必要な方は、本部までご連絡下さい。

○お願い

次に該当される方は本部へ氏名、住所、卒業学科、卒業期を明記の上ご連絡下さい。

他大学で博士号、修士の学位を授与された方。

国会議員、市町村長、県議会議員等に選出された方。叙勲を授与された方。

ご逝去された方。

○次回の41号会報より親しみやすい形式に刷新する計画です。また、今号から掲載しましたが「支部会だより」として各県支部の活動状況などの投稿をお待ちしています。

支部会だより

日獣大同窓会の活性化に思う

日獣大同窓会熊本県支部　四宮　義和

大学同窓会への理解者は、大学及び教授陣に対する在学中の恩義や、研究室及び部活等を通じての学友など親近感を強く持ち続けている人達であると思われますが、このような人達は同窓生の中でも限定されるようです。

私は同窓会地方支部において十二年間三名の支部長に事務局として仕え、先日、退任しましたが、事務局を引き受けた当初、総会・懇親会出席者も会費納付者も約100名の会員中三割程度でした。

そこで、二年目から同窓会への愛着と関心を引き付けるため、総会・懇親会欠席者には①「総会開催状況報告」と「大学・同窓会関連資料」を送付、②毎年1月には「本部同窓会報」の送付、③3月の年度末会費納付前には会費未納者への「納付依頼書」を送付するなど年三回の文書を発送し、あて名は手書きで書き、一言付け加えることに努めるとともに、総会出欠の回答が無い場合は個別に電話連絡し出席を促しました。すると二年目から納付率五割となり、三年目からは六割に向上、総会・懇親会出席者も三割から五割に増加、支部会員同士の連携もスムースでお互いにいろんな面で支援・協力的な態勢ができました。

しかし、十年が経過した現在では会費五割、総会出席率三割程度に落ち込んでいます。原因は中堅世代および獣医学科以外の卒業者の不参加であり、最も大きな要因は大学の医療センター建設募金・教育棟建設募金等が連続したために、募金未納付者はそのまま支部総会への不参加と会費納付減少へ繋がったものと思われます。

本部会費徴収の実績を見てみますと、二割程度の現況を納付率四～五割へ向上させるには、全国事務局長会議を開催し、同窓会への理解と結束を強化するとともに、支

部事務局長及び役員が日頃から会員との連絡を密にし、各学科卒業者の横の連携ネットワークを構築し、支部内で総会・懇親会だけでなく、イベント（ゴルフなど）など行なうことが、現況打開の第一歩ではないかと考えられます。

本部において支部強化策をご検討のうえ、本部・支部の連携強化を具体化することにより、大学及び同窓会の限りない発展を祈念するものであります。

同窓会関係情報

学位取得者

獣医学専攻　博士課程

甲第124号　甘粕　晃平（獣医生理学）
甲第125号　儀谷　真弓（獣医臨床繁殖学）
甲第126号　髙石　裕未（獣医放射線学）
甲第127号　田村　恭一（獣医臨床繁殖学）
甲第128号　Chutharat Munchan（魚病学）
甲第129号　趙　東威（獣医外科学）
甲第130号　手嶋　隆洋（獣医外科学）
甲第131号　Pham Minh Duc（魚病学）
甲第132号　八木原紘子（獣医臨床繁殖学）
甲第133号　森　昭博（獣医生理化学）
乙第277号　片山　泰章（獣医外科学）
乙第278号　野呂　太一（獣医衛生学）
乙第279号　笠井　潔（獣医寄生虫学）
乙第280号　上田　英夫（比較動物医学）

応用生命科学専攻　博士前期課程

第7号　岩﨑　永治（動物栄養学）
第8号　Quang Thi Dong Thuy（食料自然共生経済学）
第9号　髙橋奈緒子（動物栄養学）
第10号　髙濱　結花（食品化学）
第11号　田中　絢子（食品工学）
第12号　沼尾　真人（動物生理制御学）
第13号　三室　明寛（動物生産化学）

会報39号に記載漏れがありました、ここにお詫びして記載いたします。

〈博士〉
大野　平祐（大学50期・食品）獣医学博士（母校）

県議会議員
竹下　博英（大学24期・獣医）秋田県議会議員に当選

母校入学試験結果

平成二十一年度の母校入学試験は次のような結果であった。

入学者数

獣医学科	98名
獣医保健看護学科	96名
動物科学科	88名
食品科学科	90名

平成 21 年度入試　地区別入学者　一覧表

地区	獣医学科	獣医保健看護学科	動物科学科	地区計
北海道	0	1	1	2
東北	4	6	3	13
関東甲信越	69	74	78	221
北陸	2	3	0	5
東海	4	3	3	10
近畿	7	5	0	12
中国	2	1	0	3
四国	1	1	2	4
九州	6	2	0	8
その他	1	0	1	2
計	96	96	88	280

※（ ）内は指定校推薦、第１回追加合格者：N3 名、F4 名含む。
第２回追加合格者：V8 名、N11 名、Z8 名含む。

平成 21 年度入試　倍率　一覧表

平成 21 年 4 月

試験区分	学科	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
〈推薦〉	獣医	109	106	21	5.05
	保健看護	79	79	28	2.82
	動物	28（3）	28（3）	26（3）	1.08
	食品	30(15)	29(15)	29(15)	1
〈社会人〉	獣医	5	5	1	5
	保健看護	1	1	0	0
	動物	0	0	0	0
	食品	0	0	0	0
〈帰国〉	獣医	3	3	1	3
	保健看護	0	0	0	0
	動物	0	0	0	0
	食品	0	0	0	0
〈後継者〉	獣医	20	19	5	3.8
〈学士〉	獣医	37	37	2	18.5
	保健看護	0	0	0	0
	動物	0	0	0	0
	食品	0	0	0	0
推薦＋特別	（小計）	312	307	113	-
第１回一般入試	獣医	1,370	1,312	103	12.74
	保健看護	423	412	99（3）	4.16
	動物	425	414	132	3.14
	食品	157	153	113（4）	1.35
	（小計）	2,375	2,291	447	-
センター試験	獣医	415	415	42	9.88
	保健看護	147	147	39	3.77
	動物	167	167	20	8.35
	食品	87	87	20	3.45
	（小計）	816	816	121	-
第２回一般入試	獣医	574	523	16（8）	32.69
	保健看護	82	78	28（11）	2.79
	動物	71	61	25（8）	2.44
	食品	55	42	20	2.1
	（小計）	782	704	89	-
総合計		4,285	3,414	770	-

母校近況

■母校教員人事

○新任

教授　牛島　仁（動物生殖学）
准教授　田口　文広（獣医微生物学）
助教　大石　元治（獣医解剖学）
原田　和記（獣医微生物学）
中田　友明（比較動物医学）
野瀬　出（比較発達心理学）

森　昭博（獣医保健看護学臨床部門）
中尾　暢宏（動物生理制御学）
江草　愛（食品機能化学）

○昇任

教　授
天尾　弘実（実験動物学）

准教授
堀　達也（獣医臨床繁殖学）
石岡　克己（獣医保健看護学臨床部門）

講　師
原田　恭治（獣医外科学）
山本　昌美（獣医保健看護学応用部門）
水越　美奈（獣医保健看護学臨床部門）
岡田幸之助（動物生殖学）

○配置換

獣医高度医療学
准教授
竹村　直行（獣医内科学）

○退職

鷲巣　誠（獣医高度医療学）

○定年退職

教　授
柿市　徳英（獣医衛生学）
友金　弘（動物生殖学）

○名誉教授の称号授与

柿市　徳英（獣医衛生学）
友金　弘（動物生殖学）

■学生表彰

学長賞、社団法人日本獣医師会褒賞、日本畜産技術士会長賞、同窓会長賞は、各最終学年の学生を対象として選出され、武蔵野賞は各学年から選出される。授与は最終学年は学位記授与式にて表彰され、在学生は入学式にて表彰された。

(1) 学長賞

獣医学科　佐藤朝香
獣医保健看護学科　三浦睦
動物科学科　及川真実
食品科学科　伊藤みのり

(2) 社団法人　日本獣医師会褒賞

獣医学科　鳥居こず恵

(3) 日本畜産技術士会会長賞

動物科学科　兼岩慶子

(4) 同窓会長賞

獣医学科　山本真弘
獣医保健看護学科　鄭英和
動物科学科　澁井美菜子
食品科学科　岡見彩子

(5) 武蔵野賞

獣医学科2年　池谷早代
獣医学科3年　赤津佳菜子
獣医学科4年　八木智子
獣医学科5年　井上元
獣医学科6年　前田まりか
獣医保健看護学科2年　石田沙恵
獣医保健看護学科3年　丸山基世
獣医保健看護学科4年　市堀あさき
動物科学科2年　小渕智子
動物科学科3年　長野春香
動物科学科4年　諏訪聖哉
食品科学科2年　井上航
食品科学科3年　真壁友里子
食品科学科4年　細野真澄

平成二十年度 獣医師国家試験について

平成20年度（第60回）獣医師国家試験は平成21年3月2・3日に実施され、その結果は3月18日に発表された。

本学新卒者の合格率は75・3％（新卒者全国平均86・3％）で、全国16大学で最低の成績であった。原因は種々考えられるが、要因は、甘い進級基準、再々試験の実施といった繰り返しの救済措置に伴う学生の緊張感の低下、それまでの高い合格率による教員の油断の2つに集約されると考えている。

災い転じて福となるよう、学長、学部長の陣頭指揮の下、今年4月以降、種々の改革を行っている。教育レベルアップのため、過去の国家試験問題が閲覧でき、他大学の国家試験情報が取れるようパソコンを複数台設置した教育推進室が開設された。さらに、卒業論文提出時期の繰上げ、卒業試験内容、実施時期の見直し、総合獣医学講義内容の検討、既卒不合格者のための土曜学級の開講など、国家試験合格率アップにつながると考えられる種々の対策を進めている。これらの措置により、来春には朗報が届けられるものと期待している。

獣医保健看護学科 ――第Ⅰ期生の巣立ち――

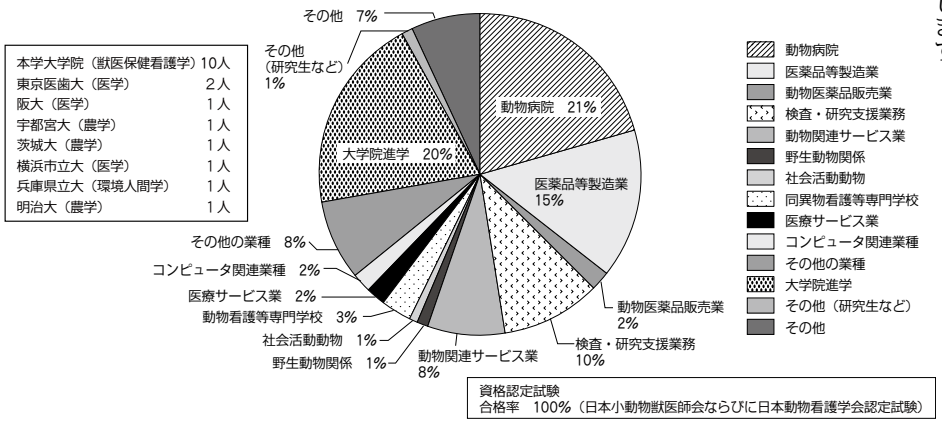
獣医保健看護学科は、旧日本獣医畜産大学が学校教育法第91条の3に基づき平成15年4月に創設した動物保健学別科（二年制：小動物臨床看護師の養成を目的：平成17年3月廃止）をベースに平成17年4月に獣医学部の一学科（四年制：定員80名／学年）として開設され以来、五年目を迎えております。本年3月には第一期生が社会に巣立ちました。その就職状況の概要を報告します。

第一期生の進路状況を示すと図のような領域に区分されます。小動物病院（動物看護職）、医薬品関係会社（開発、製造、営業等）、検査関係会社、動物関連サービス業、大学院進学等が主な進路先等になっています。

当学科の教育目標は、小動物（家庭動物）診療領域における動物看護職の養成を基盤として、より専門性の高い獣医療技術職として、その目指す職域を産業動物、野生動物、実験動物の保健看護・衛生検査並びに家畜衛生、公衆衛生等の広い分野に展開すべく、専門性の高い技術者を育成することであります。また、獣医保健看護学分

野の教育・研究者を育成するため、平成21年4月には大学院獣医生命科学研究科に獣医保健看護学専攻（修士課程）を開設し、平成23年度には博士課程を開設する予定です。今後、獣医保健看護学教育コアカリキュラムの確立、国家資格制度の確立等、新たに開拓せねばならないことが目白押しです。皆様のご協力並びにご支援をお願い致します。

獣医保健看護学科第１期生の就職状況（2008 年度）



第二回梅野信吉賞受賞者決定

研究推進委員会　委員長　新井敏郎

平成20年度梅野信吉賞受賞者に獣医生理化学教室・山本一郎助教が選出された。

山本先生は、三重大学卒業後、名古屋大学で学位を所得した後、カナダ・アルバータ大学医学部および本学ハイテクリサーチセンターでポストドクターとして研究に従事し、平成20年4月に獣医学科・獣医生理化学教室の助教として本学に赴任した。専門は分子生物学で、現在は主に犬、猫の代謝障害の遺伝子診断法の開発、ホルモンレセプターの遺伝子解析を行っている。

受賞の研究テーマは「グレリン受容体ファミリーの消化管機能制御機構」である。グレリンとは近年発見された比較的新しいペプチドホルモンで、胃から血流を介して分泌され、摂食行動の促進、下垂体からの成長ホルモンの分泌促進など多様な生理作用を有するホルモンである。血中に分泌されたグレリンが標的器官・細胞に作用するにはグレリン受容体への結合が必須で、これはG蛋白質共役型の受容体であることが知られている。グレリン受容体はその構造・性質からファミリーを形成しており、いずれも消化管の生理機能に密接に関与し、ニワトリを使って分子生物学的な解析を行った。グレリン受容体ファミリーの遺伝子を解析するためにcDNAクローニング、各組織におけるmRNA発現解析、そして得られた塩基配列情報をもとに培養細胞株にて、それぞれのホルモンが受容体を介して細胞内カルシウム濃度を上昇させることも明らかにした。特に遺伝子解析によって得られた情報は重要で、犬、猫の肥満あるいは糖尿病といった疾病の早期診断、遺伝子診断の開発に寄与するものである。

授賞式は平成21年4月6日の入学式の中で執り行われ、池本学長から表彰状、記念楯ならびに副賞が授与された。記念楯および副賞は同窓会の寄付によるものである。

―。―。―

平成21年度 学術交流会 広島市で開催

第25回に当たる平成21年度の学術交流会が、広島市の平和記念公園に隣接する県民文化センター（鯉城会館）において、10月11日の日曜日に開催された。

本学の学術交流会は、同窓会員の方々と母校教職員とが、ともに学び親睦を計ることにあります。

今年度は、広島県東本卓夫支部長を始め、広島県同窓会支部の方々を中心に中国および四国地区の同窓会の協力のもと、中国・四国地区大会として開催しました。

講演会は、午前中に「犬のクッシング病」というテーマで、本学の臨床系教員二名による小動物臨床に関する教育講演が行われた。本学の同窓会員だけではなく、近県の小動物臨床に従事されている方々を含め、約80名の参加があり質疑応答も活発に行われた。午後からは、一般市民および市内の動物看護系学生のための公開講座で「食の安全と環境」、「動物由来感染症：SARSと豚インフルエンザ」、「クローン生産技術の利用性」のタイトルで、本学の専門の先生に今注目されている食の安全に関する講演が開催された。さらに、別の会場では、「動物看護師の役割」、「獣医療技術職（動物看護職）の現状と国家資格認定制度化」、「アニマル・セラピーの生理心理学

的な効果」のタイトルで、本学の獣医保健看護学科および広島県立大学の先生に、動物看護に関する講演が開催された。両会場合わせて約130名もの参加者があり、盛況の内に公開講座が終了した。

午後4時過ぎからは、東京から参加した教職員・同窓会の役員の方々および広島県をはじめ中国・四国地区の同窓の方々との懇親会が開かれ、とてもなごやかな雰囲気であった。

来年は、母校武蔵境のキャンパス内で、第26回学術交流会を開催予定ですが、今回の経験を生かし、さらに実り多い会を開くよう、努めたいと考えています。

実行委員長　河上 栄一

―。―。―

平成20年度 卒業生就職状況

平成20年度卒業生の就職状況を学科別に見ると、次のようです。

獣医学科は、小動物臨床の個人開業動物病院に約64％の卒業生が就職しており、相変わらず根付良い人気となっています。

今年度初めての卒業生を送り出した獣医保健看護学科については、本学付属動物医療センター等をはじめとする小動物臨床の個人開業動物病院の動物看護師として27％が就職しています。

動物科学科においては、畜産業・農業関連、動物関連サービス業等多岐に亘り就職しています。

食品科学科は、例年同様食品製造関係へ約31％の卒業生が就職しています。

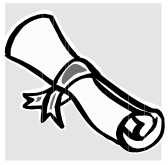
最終的な就職希望者の就職率は獣医学科が93％、獣医保健看護学科92％、動物科学科100％、食品科学科が94％でした。

―。―。―

平成20年度 学位記授与式挙行

平成21年3月11日（水）午前10時から、日本獣医生命科学大学「平成20年度学位記授与式」がアリーナ（体育館）において挙行された。

獣医生命科学研究科獣医学専攻博士課程修了者及び論文審査合格者15名、また、応用生命科学専攻博士前期課程修了者7名、獣医学科90名、獣医保健看護学科92名、動物科学科70名、食品科学科76名の計350名に学位記が手渡された。



平成21年度 入学式

平成21年4月6日（月）午前10時から、日本獣医生命科学大学「平成21年度入学式」がアリーナ（体育館）において挙行された。

獣医生命科学研究科の大学院生31名（獣医学専攻博士課程9名（10月入学者1名含む）、獣医保健看護学専攻修士課程10名、応用生命科学専攻博士前期課程11名、同後期課程1名）、獣医学科98名（学士入学2名含む）、獣医保健看護学科96名、動物科学科88名、食品科学科90名の新入生計403名が入学した。

平成21年度 体育祭が武蔵野競技場にて開催

平成21年10月1日（木）秋晴れのもと武蔵野陸上競技場において、体育会クラブを中心とした学生約300名が参加しかいさいされた。

各チームとも日頃の成果を発揮するべく各種目に汗まみれで取り組んでいた。

平成21年度 動物慰霊祭挙行

平成21年10月29日（木）正午より本学中庭の「仁畜の碑」前にて、平成21年度動物慰霊祭が、無宗教献花方式をもってしめやかに執り行われた。

開式の言葉に続き黙祷が捧げられ、学長および学生代表の軟式庭球部主将より、追悼の言葉が読み上げられた。さらに、学長、大学院獣医生命科学研究科長、獣医学部長、応用生命科学部長、動物医療センター院長、牧場長、生命科学共同研究施設管理主任、動物実験委員長、学生代表による指名献花の後、教職員、学生等約300名の参列者が献花をおこない、動物達の冥福を祈った。

平成21年度 日獣祭が賑やかに開催される

第60回日獣祭は平成21年10月31日（土）～11月1日（日）の二日間にわたり開催され約2,000名の来場者があった。

二日間とも好天に恵まれ、家族連れが数多く見受けられなか、恒例のペットショー、愛奏会ウインドアンサンブルコンサート等好評のうちに終了した。

本年のテーマは「軌跡」で、第60回を記念して日獣祭の歴史を辿り、伝統を大切にしつつ新しいものを取り入れようという概念から決まったものです。軌跡とは、その人が辿ってきた精神・行動の遍歴の跡や、同一組織・運動などがそれまでに経過してきた推移の跡。と辞典には記されています。皆さんも自分の過去を振り返ると共に本学が130年近い歴史を重ねてきた足跡を辿ってみませんか。

日本獣医生命科学大学獣医学科第19期生・畜産食品工学科第1期生
合同同窓会の思い出

日本獣医生命科学大学の教育棟の竣工式に出席した際、浅野君、長谷川君、藤江君、斉藤君、野村君ら同級生が出席しており、我々還暦を迎える年、定年等、大きな人生の節目であり、ぜひ合同同窓会を開催しようということになりました。

卒業して38年、日本獣医生命科学大学獣医学科第19期・畜産食品工学科第1期合同同窓会が平成21年11月22日、銀座サンミ高松7丁目店にて、池本卯典学長、中條真二郎日本獣医生命科学大学同窓会会長のご臨席を賜り開催しました。

野村治君の司会で開会し、物故者への黙祷、発起人代表の篠原公七君の経過報告と挨拶に続き、池本学長から、獣医大学としての状況、大学や学生への思い、大学としての獣医行政のあり方など、大変熱をいれてのご挨拶をいただきました。また、中條同窓会長からは、同窓会や大学、学生の状況など、大変詳しくご挨拶をいただきました。出席していた女子全員から恩師に記念品と花束を贈呈し、60名全員で記念撮影をした後、山内直文君の乾杯で懇談会にはいりました。それぞれのテーブルでは、学生時代の懐かしい思い出、子供のこと、仕事のこと、38年前の武蔵境の日本獣医畜産大学、古い当時の校舎、それぞれの研究室や部活へタイムスリップし思い出話がつきませんでした。池本学長、中條同窓会会長も各テーブルを回っていただき、時間の経過も忘れるほどの思い出深い記念すべき同窓会になりました。

アッという間の3時間、君島貞完君の中締めの挨拶と、佐渡純一君の万歳の音頭でお開きになりました。銀座サンミ高松の溝渕優社長（香川県出身、毎回同窓会その他で大変お世話になっています。）には、大サービスをして頂いたうえ、お土産までいただきご配慮に恐縮しております。さらに話足りない有志と宿泊希望者は、三田の東京さぬき倶楽部に宿をとり、朝まで歓談していました。我々団塊の世代、昭和42年入学、金も物もあまりない時代でしたが、お互いの友情は大切な思い出として今日にも続いております。

また、学科は違っても同じ学び舎に席を置き、クラブ活動にも汗を流し、熱き血潮のみなぎる青春時代を過ごした仲間たち、60歳を過ぎましたが、まだまだ世の中が必要だと思ってくれていると確信しています。大きな変革の時代ですが、歳と身体を考えながら、日本獣医生命科学大学の卒業生としての誇りを持ち、それぞれの地域社会に貢献し充実した人生を頑張りましょう。ご出席いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

篠原　公七

紡ぎ続けて一三〇年

日本獣医生命科学大学学長
池本卯典

同窓生の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年中は大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。今年も何卒ご支援をよろしくお願い致します。

満年齢か！　数え年か！。多少の戸惑いもありましたが、結局満年令に決定し、明年を開学一三〇周年とすることに決りました。現在その記念事業を計画している最中です。私に与えられた分担は、既刊の一〇〇年史に三〇年分を加筆し、新一三〇年史を編集する業務であります。

一〇〇年史編集後、三〇年の歴史的資料は揃っているものと思い、作業に取り掛かりましたが、一〇〇年史の原資料はおろか、その後の史料も整理が不充分であり、結局、同窓会誌や学生新聞、そして折りに触れ先輩諸兄の報告されていた誌談を漁り、遅々ながら纏めている次第です。

先ず気付いたことは、第一会議室に掲げられ皆様と共に崇拝してきた初代校長・深谷周三先生は、本学一〇〇年史第三章に述べてある「日本獣医学校」の初代校長であり、明治四十四（一九一一）年二月に就任しておられます。とすると、開学一三〇年とは整合せず、開学一〇〇年となってしまいます。開学一三〇年の計算はあくまでも、「私立獣医学校」の創設期に当る明治十四（一八八一）年九月を紀元と定めた年数であり、初代校長は「私立獣医学校」当時の荒井義通先生、といわざるを得ません。「私立獣医学校」は明治二十二年七月に一旦閉校していますが、市ヶ谷加賀町に再興された特別認可「私立東京獣医学校」の校長代理・黒瀬貞次先生が二代目校長といえましょう。当時は校長とは別に校主がおられ、初代は山本広吉先生、また、二代目は校主代理として猪瀬桂次郎先生が就任しておられます。そして、一年後の明治二十六年十二月に三代目校長として厚木訥平次先生を迎え、合計一二三名の卒業生を輩出し、明治三十五年七月に再び閉校となりました。

以前から「私立獣医学校」の創立日を本学の紀元とする習わしは定着しています。従って、四代目の校長を初代と提示することは正当とはいえず、同窓先輩と相図り適切な修正が必要と考えているところです。

さて、昨年は獣医師国家試験が不如意な結果に終り、ご心配をおかけしました。深くお詫び致します。敗因については、先年夏の代議員会で報告しましたので、ここでは割愛をお許し下さい。入試対策の一つとして新設した教育推進室もようやく軌道に乗りました。幸い六年生も昨年の轍を再踏しないよう努力しているようです。また、教員側も、卒業試験の成績や学習態度等を充分に配慮した卒業判定を計画しています。《泣いて馬謖を斬る》その諺のように、非情でも他大学の定石を真似た国家試験対策を試みることも一策と考えています。

昨年は、獣医保健看護学科の完成年度、幸い就職状況は比較的順調でした。特徴は新設した大学院修士課程及び他大学院への進学者の多かったことです。

獣医学科は、偏差値の急騰もあって全国的に微減傾向です。十月ダイヤモンド誌によると、本学獣医学科・東京大学理科Ⅱ類・北海道大学獣医学科が横一列に並んだ高い偏差値、それによる受験生の敬遠を心配しているところです。応用生命学部も、就職は私学の上位、受験生数は担当教員の努力により、指定校推薦の受験生が増加傾向にあります。学生の質も信州大学・広島大学・香川大学等の農学部並、とダイヤモンド誌に掲載され、ひと息ついているところです。

臨床力については、動物医療センターの運営が順調に推移してきました。本学は今後の帰属収入を、動物医療センターの獣医療費に依存する以外に策はなく、臨床系教員の負担増を気にしながら、心密かに期待をしているところです。

研究力は、ハイテクリサーチ・学術フロンティア計画の展開に続き、文部科学省の新しい研究支援事業により、旧図書館の三階に《動物疾病制御研究センター》を新設し、開拓を始めた高度獣医療の成果も上がってきました。

また、昨年の暮には、ＭＲＩの更新補助、獣医保健看護学科の提出した代謝異常高感度検出システム計画に、合計約一・七億円の助成を獲得しました。これで今年も収支差額は黒字になると安心しています。願わくは、民主党の仕分け作業で、これ以上私学助成を減額されないよう願うのみです。

創立一三〇周年記念事業の主な計画は第二校舎の土地を原資とした、食品科学科と獣医保健看護学科の教育研究施設を第一校舎内に新設すること、東京大学田無農場サテライトの分譲を受け、運動場と馬場並びに馬術部室の新設計画であります。幸い現時点では交渉も順調で、計画の早い実現を願うばかりであります。

取りとめのない新年の挨拶となりましたが、いずれも同窓生各位の支援なくしてこの事業の成就は至難です。ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

末辞となりましたが、皆様の御多幸を心からお祈り申し上げます。